

キーワードから考える
ことばの学習(1)
～ことばの初期学習を中心に～

葛西ことばのテーブル
三好純太

パターン

pattern

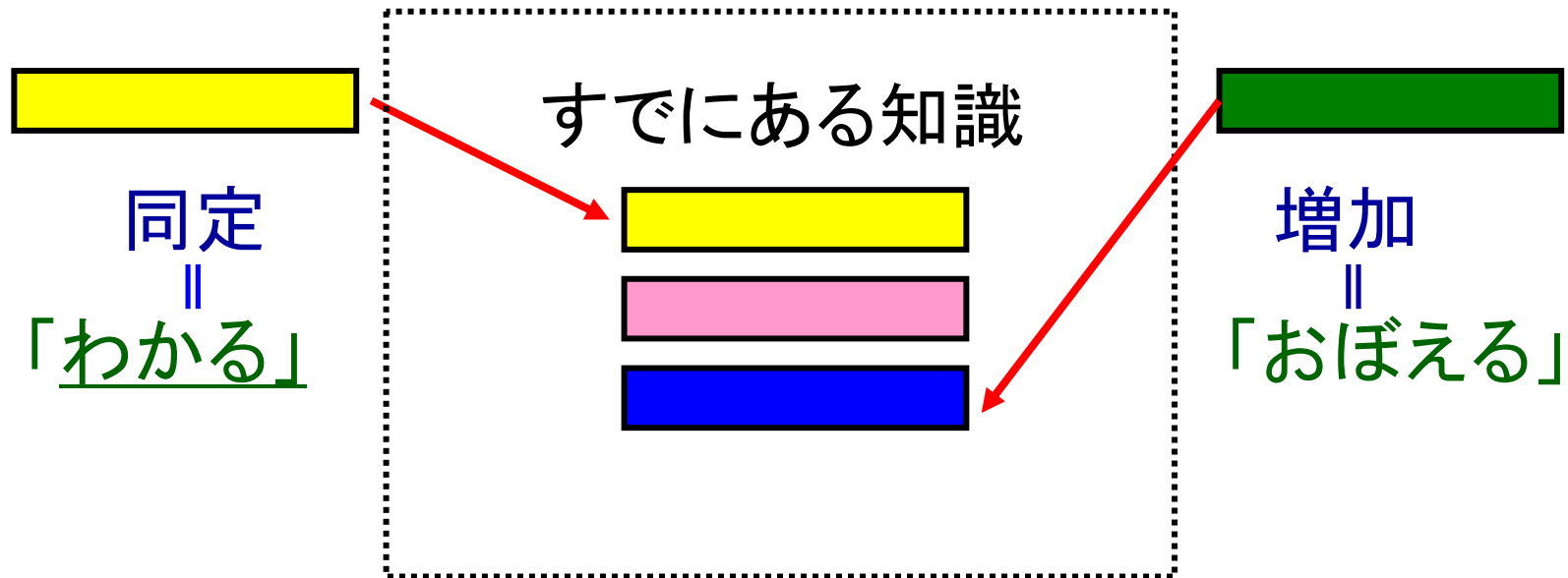
パターン

情報を、すでにある知識と照合して認識すること

そのようにして得られた知識

旧知識と新知識

情報



レイ・ジャケツケンドフ 「心のパターン」

人間は、パターンの獲得により学習を進める

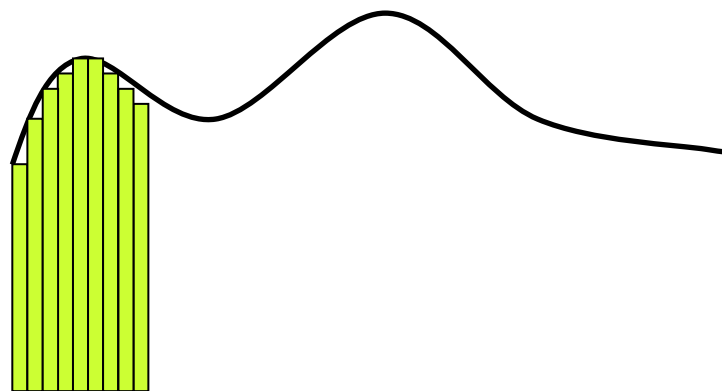
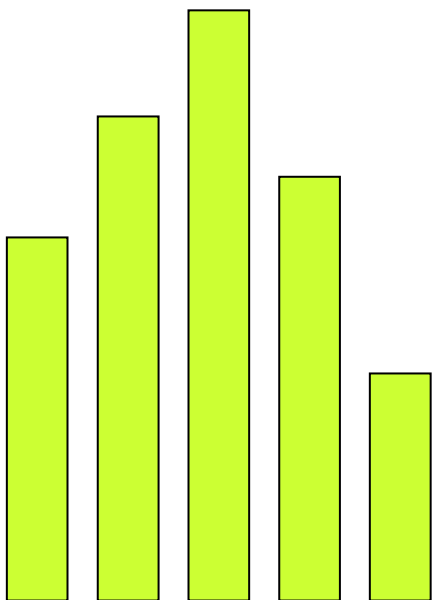
音楽・美術・運動・・・



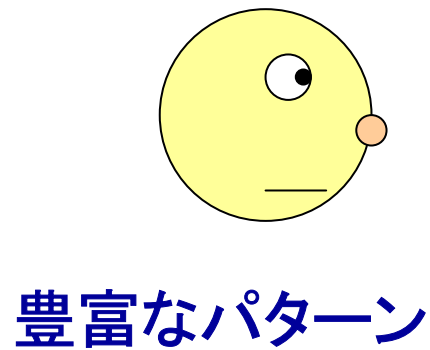
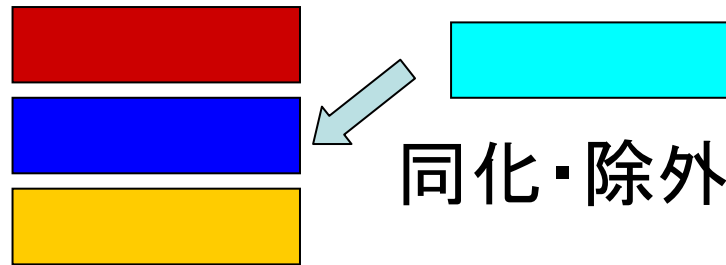
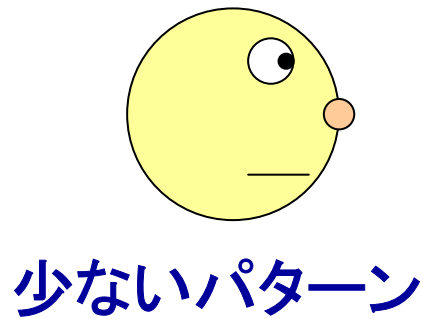
すべての経験は、パターンの学習により高度化

デジタルとアナログ

あいまい・感覚的と思われ
れるものも...



パターンの蓄積



直感的に学習

ことばの習得におけるパターン

◎事物名詞

=即時マッピング(1回の経験で覚えられる)

◎動詞・形容詞・文法(助詞・動詞活用)は困難



経験の積み重ねから、類推して習得
(パターンの蓄積)

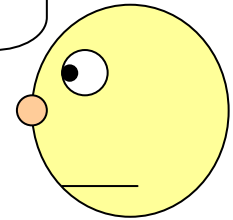
動詞「のる」の習得

「クルマに、のる」

ローカル・ルール

単一パターン

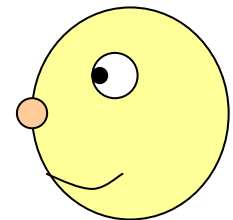
車のとき
だけだ



「クルマに、のる」
「ヒコウキに、のる」
「フネに、のる」

運用パターン
の増加

どんな文で
も使えるぞ



「ほうきに、のる」
「おとうさんが、のる」

グローバル・ルール

一般的な
運用規則の
獲得

「パターン」ということばの持つ意味

①原型・模倣 / 倣って作る

- ※自閉症＝パターン依存（**型通り**：同じことを繰り返す）
 - ・新しいパターンの産生が困難

②模倣する・まねることにより、生み出されたもの

パターン学習


同じ型（構造）のものを、例にならって、やってみることに
よって、新しいパターンを作り出す

パターン学習の例

◆ 連語練習ワーク


連語練習 2

なに に のる？ (月 日)




--	--

のる



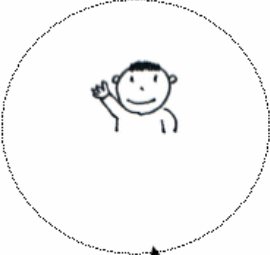
--	--

のる



--	--

のる



--	--

のっているものを、かいてみよう！

ことばのテーブル


◆連語練習ワーク


ばす に のる




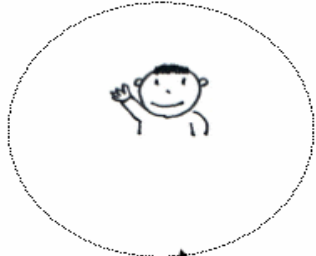
移動手段を表す
助詞「に」

連語練習 2 (月 日)
なににのる?

 ばす に のる

 ふね に のる

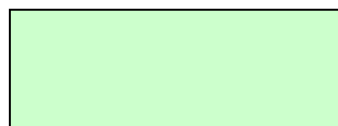
 ひこうき に のる


のっているものを、かいてみよう!

ことばのテーブル

◎ 連語練習ワークの意義

- 文構造における助詞の適用

 に のる

こういうときは
「に」だ・・・



- いろいろな目的語に対しての動詞の適用

→ 動詞連結の一般化

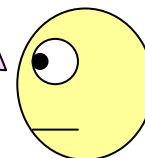
船にも飛行機にも
「のる」だ・・・



- テーマとなる文構造と合致した文の産生



のるものを、
書かなきゃ・・・



各テーマのパターン


～に のる


学習構造のパターン


- 「名詞＋助詞」
- 最後に絵を描く etc

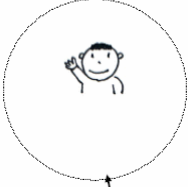
連語練習 2 (月 日)

なににのる?


のる


のる



のる



のっているものを、かいてみよう!


ことばのテーブル

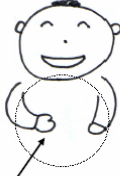
連語練習 5 (月 日)

なにをのむ?


のむ


のむ



のむ



のんでいるものを、かいてみよう!


ことばのテーブル


連語練習 14 (月 日)

なにでたべる?


たべる


たべる


たべる


たべるどうくを、かいてみよう!

ことばのテーブル

パターン学習の意義

● 課題構造の洞察 → 抽象的思考力の向上

● 繰り返しの中で、直観されてくる内容

(ことばの規則)



(ここには、モノの名前が入るんだな・・・)

(ここには、動きのことばが入るんだな・・・)

(ここには何か、意味のない短い音が入る・・・)

形式から内容へ

心のパターンを豊かにするためには

● 毎日の生活の中では…

さまざまなパターンに触れる

より多くのパターンを経験することにより、それぞれの違いや、その世界の広がりを意識する

● 学習においては…

いろいろな種類の学習をする

内容のいろいろ

課題構造のいろいろ

パターンの多様化(高度化)を支えるもの

◆ 対象に対する興味・関心

- * 高い能動性(志向性)

- * ことばの場合 → コミュニケーション意欲
他者の存在や活動への注目

◆ 比較・類推の能力

どこに違いがあるか／どのような関係があるか

能動性
activity

能動性

activity

はっきりとした意思や意図を持って、
物事に向かっていくこと

「能動性」ということばの解釈 ①

自発的に行動する

自由に行動する

自分から他者に働きかける

積極的・・・のよう
なイメージ？

⇔ 受身的



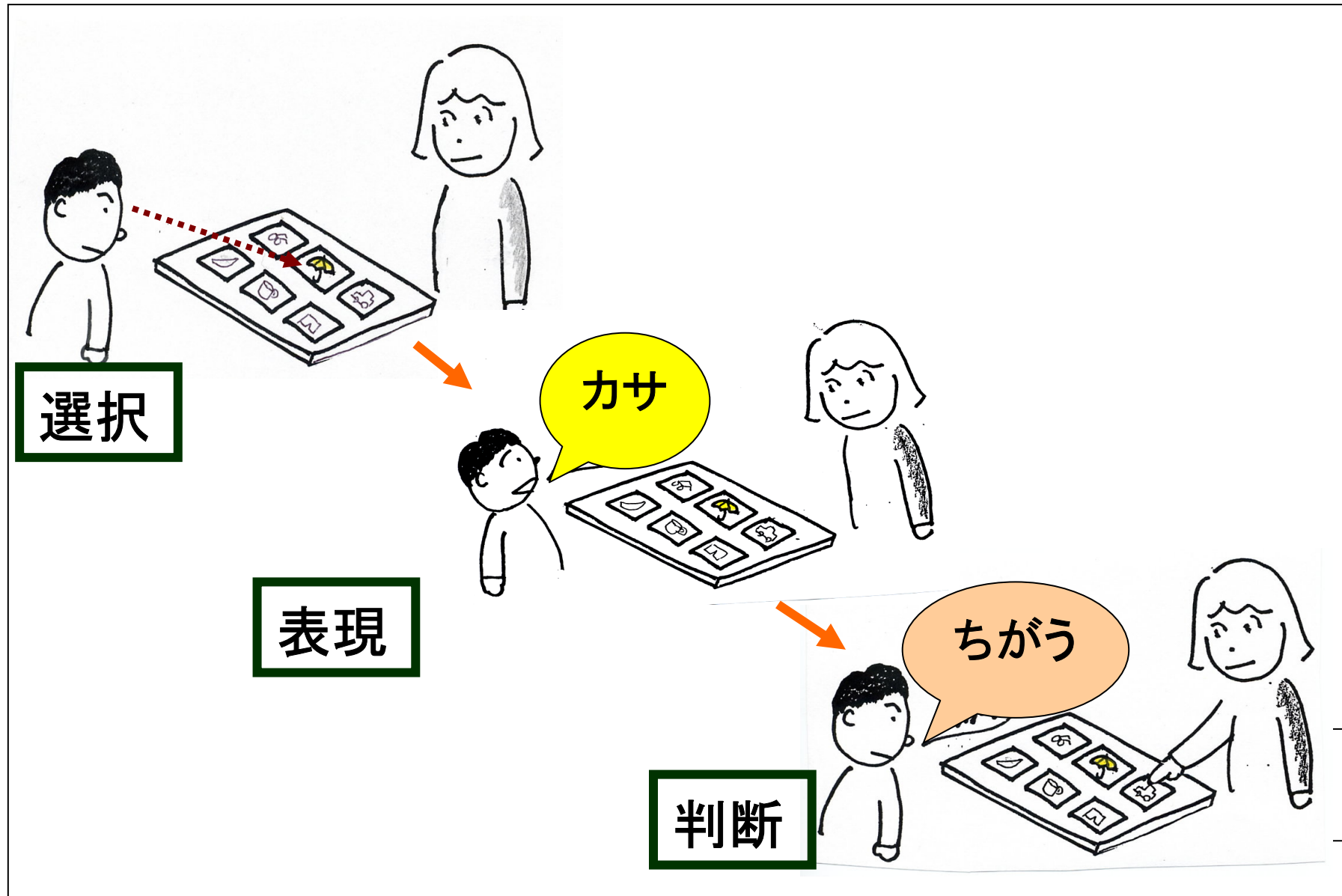
能動性を高めるための学習課題

■ 指示課題

● 指示呼称

● 探索呼称

● 指示呼称 並べられた絵カードを呼称して、相手に取らせる



● 探索呼称 窓から何が見える？



呼称する対象を自ら探索し、選びとる

「能動性」ということばの解釈 ②

対象に、強く向かって行こうとする傾向

目標達成・問題解決を目指す姿勢

↓
情報が必要

↓
情報の収集に積極的
＝受信行動の感受性が高い状態

受信行動の感受性が高い状態とは・・・

「よく見る」「よく聞く」

見る ≠ いっしょうけんめい見る

聞く ≠ いっしょうけんめい聞く

* see ではなく watch

* hear ではなく listen

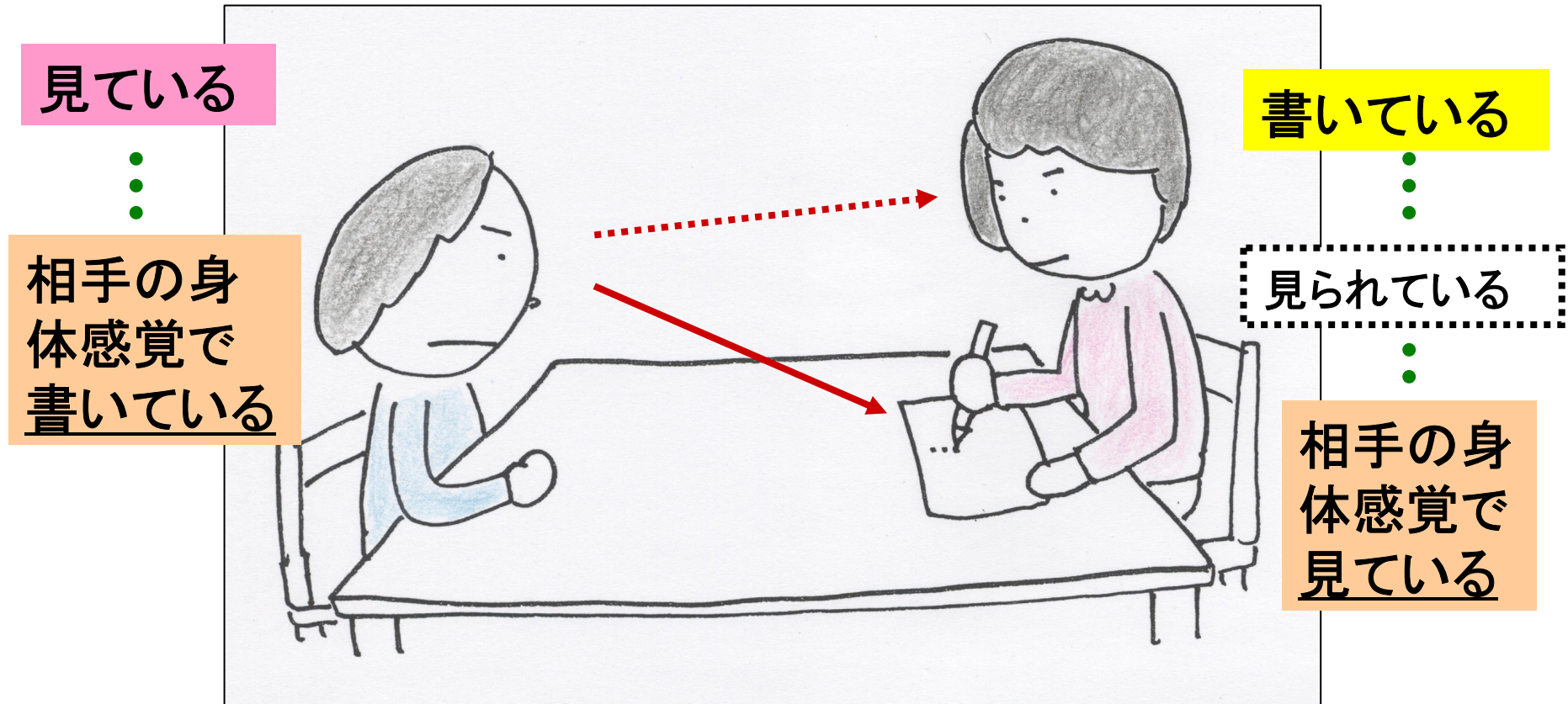
◆ 対象に強い注意を向ける = **フォーカス** (焦点化)

見る学習

見る活動

見るコミュニケーション

見る学習：他者の活動を見る

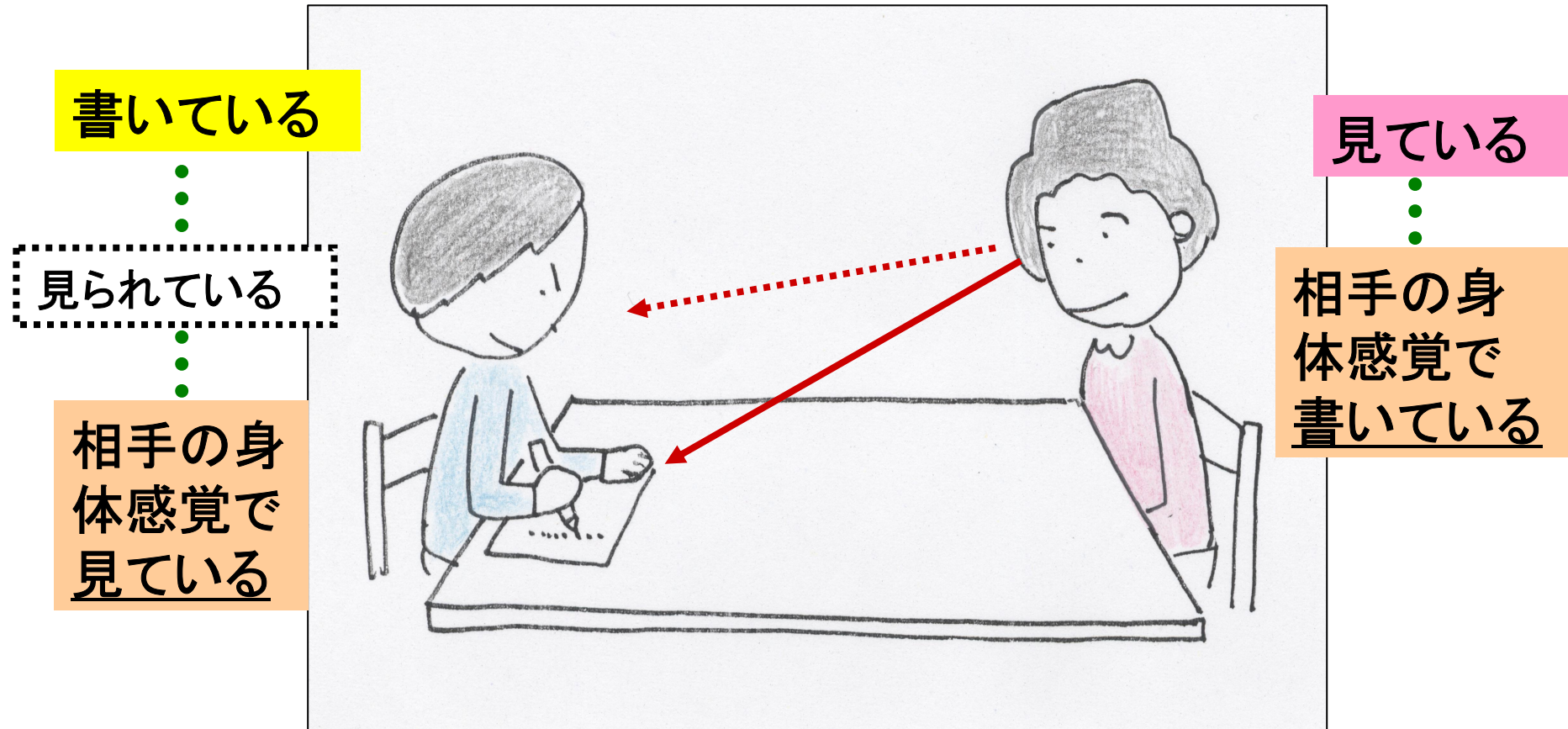


行為の共有

→ 移し身の感覚

→ 共感・愛着の形成

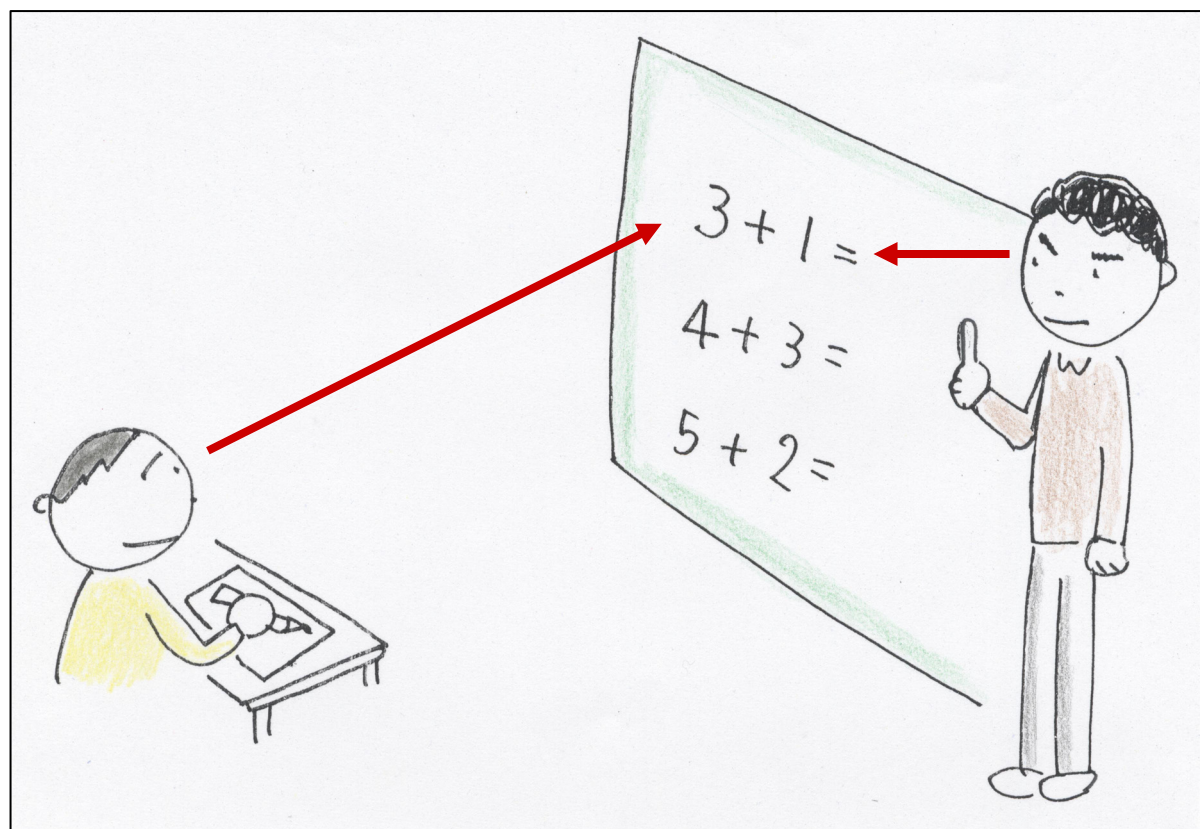
見るコミュニケーション： 他者から見られる



共感・愛着の形成

見守られていることによる助力

見るコミュニケーション: ともに見る



ともに目的に向かって
進んでいる

目的共有の
大切さ

共になにかをしている、と感じる

★目的



共感覚



共感



コントラスト

コントラスト(対比・対照)

違いの大きなもの・相反するものが、同時に示されることにより、それぞれが学習しやすくなる

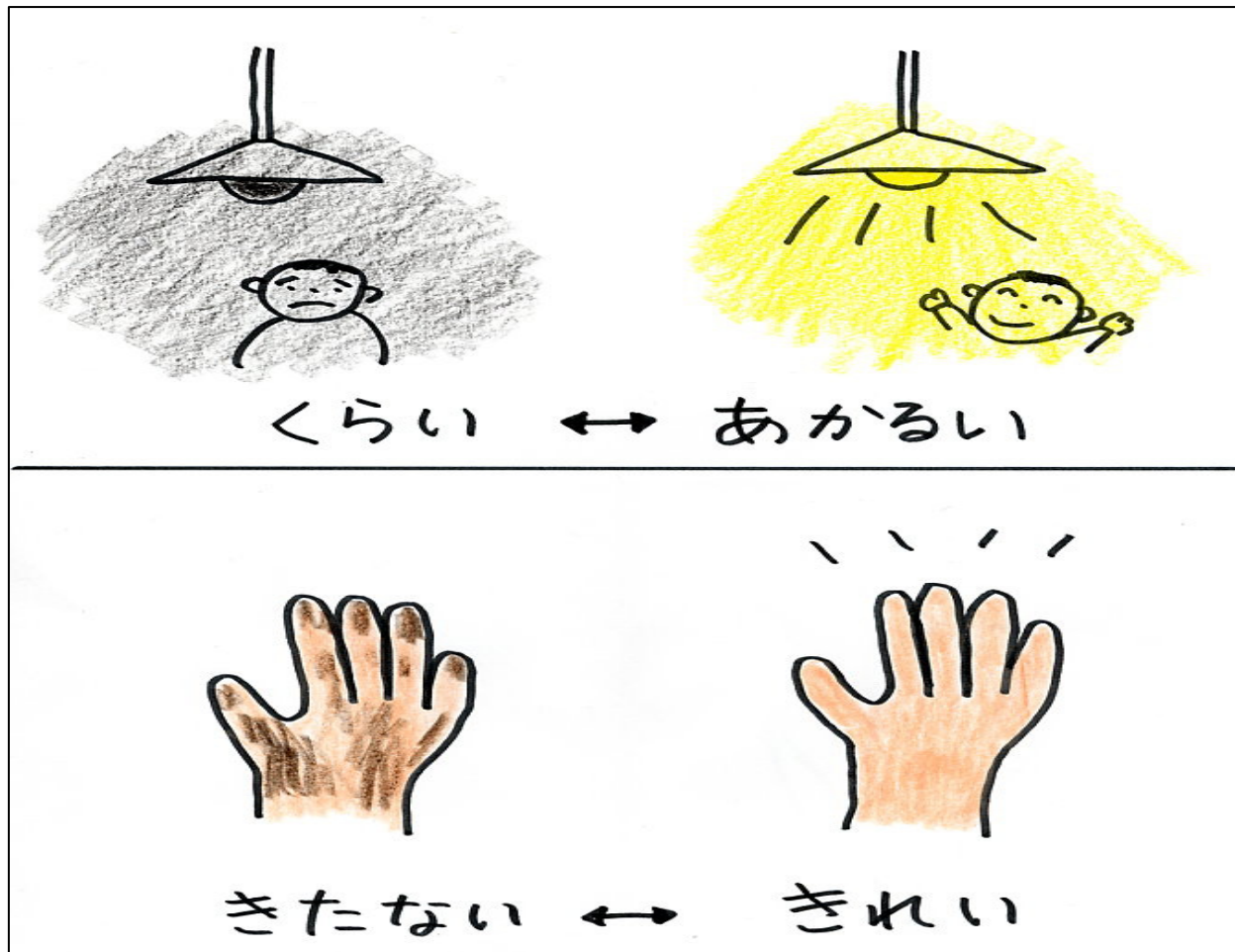


学習におけるコントラスト

- 記憶効果を高める呈示方法
- 形容詞・動詞学習に重要

形容詞の学習におけるコントラスト

◆ 反対語の学習



形容詞や動詞の特質

習得のためには、比較・類推の能力が必要

◎形容詞 ≠ 即時マッピング



それぞれの性質の違いに、気づき



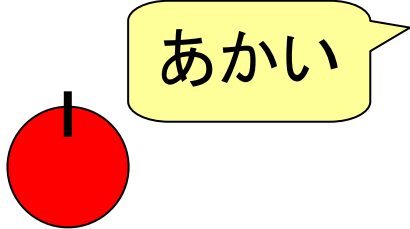
ことばの意味を類推して習得しなければならない

相違点・類似点の抽出

意味の推測を促すもの

① 文脈の手がかり

- * 既知のものに対して、言われたことは



あかい

「りんご」のこと
じゃないな・・・

② 文法の手がかり

- * 各品詞らしさ
- * 文中の位置

- ・ 形容詞:「～い」
- ・ 動詞:ウ列音で終わる
- ・ 語尾の活用
- ・ 形容詞は名詞の前につく

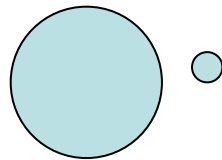
③ 違いの大きさ

③ 違いの大きさ・明確さ

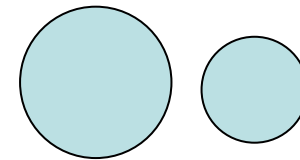
● 違いの大きさ

* 違いの大きな比較

学習が容易



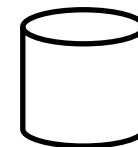
* 違いの小さな比較



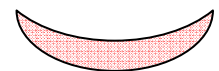
● 違いの明確さ

「とうめい」という性質の学習例

「とうめい」なのはどれ？



例示：
無色透明

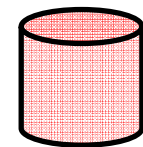
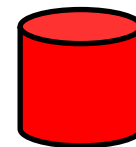


難しい

色つき不透明

色つき透明

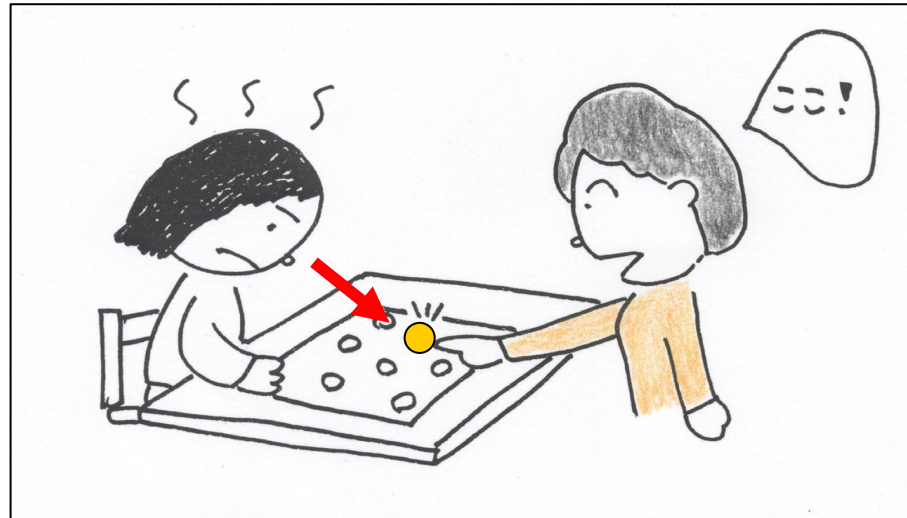
易しい



違いに対する気づき・注目



フォーカス
焦点をあてる



語彙に応じたコントラストの工夫

● 比較語

* 性質(属性)の反対性

明るいー暗い 上ー下

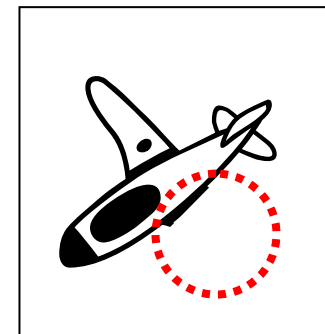
● 動詞

* 方向の反対性

開けるー閉める あげるーもらう

● 名詞

* 名称部分への注目



何が
ない？

療育

二律背反

antinomy

二律背反

相反するものが同時に存在する

両義性

アンビバレント

一匹オオカミの大群
少し上ってる下り坂
小さい大男

形容矛盾

両刃の剣

両義的意味
(二面性)

愛憎

アンビバレント
相反する感情・認識

吃音の場合

★治療における二律背反

吃音を治そうとする努力 ⇔ 吃音の受容



吃音に対する意識化



コンプレックス増大



悪化のリスク

治療の方向性

吃音を治そうと
する前向きな
姿勢

吃音を受容し、
自己の価値観を
他に求めていく
姿勢

あきらめず、こだわらず

治療者

吃音の人

ことばの学習における二律背反①

発達障害の子ども

ことば(母語)は、学ぶ
ものではない



ことば(母語)を、学ばな
なければならない

療育者

ことば(母語)は、教
えるものではない



ことば(母語)を、教え
なければならない

効果？

ことばの学習における二律背反②

学習プログラム

$i+1$ が基本



情意フィルター

現状能力の、ひとつだけ上の段階のものを学習する

能力ぎりぎりのものは、心理的負担大

しかし・・・

二律背反は人間に根源的なもの

人間の生活そのものが、さまざまな二律背反や
両義性に満ちている

絶対的な、正誤や良悪を判断できることは少ない。

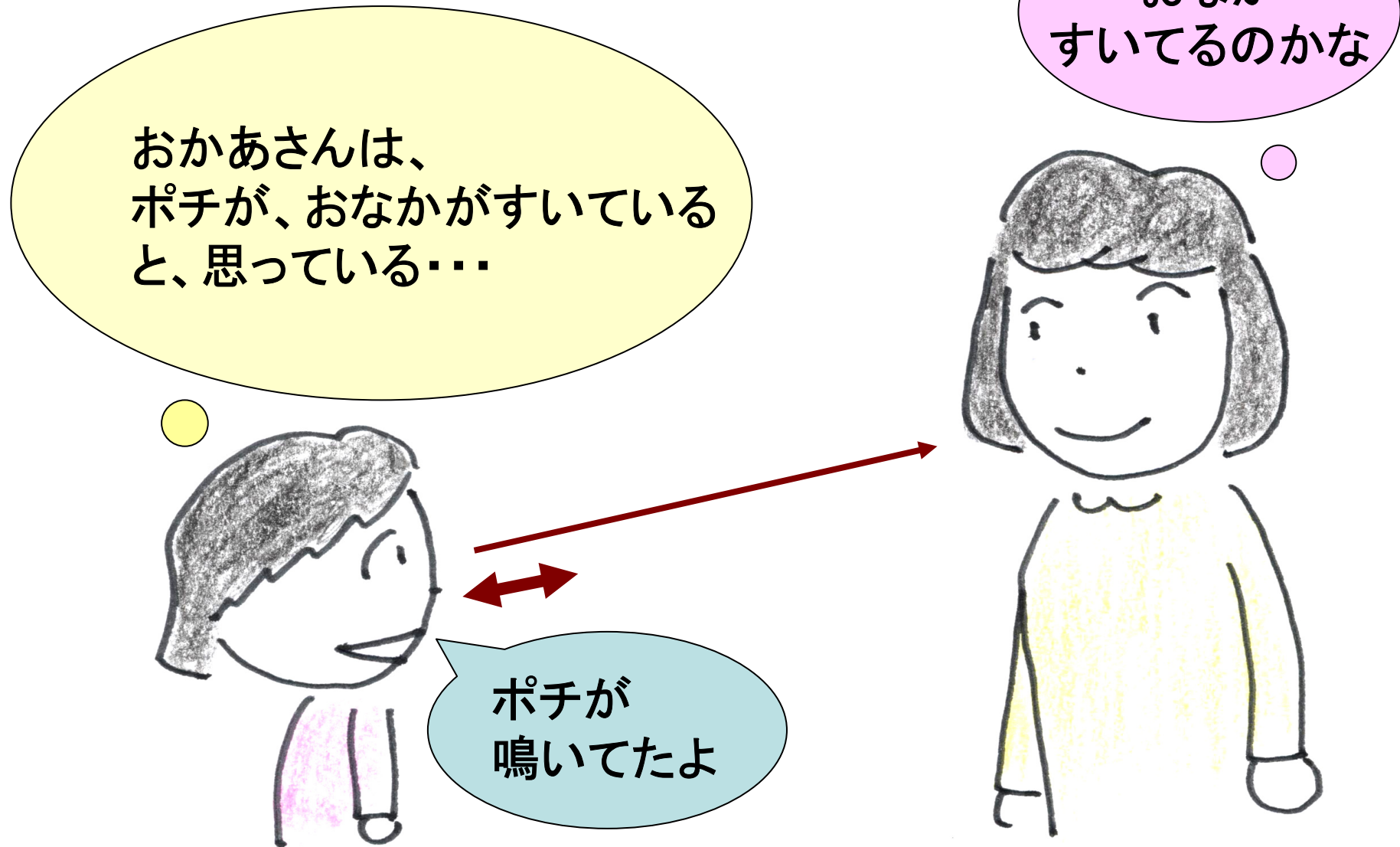
反転図形

図と地の関係



見方によって違って見える

コミュニケーションにおける両義性



つねに他者の視点や意図を共有しながらコミュニケーションしている

★二律背反に対する態度

相反するものの許容

* 双極に振れない

双方向的な物の見方

いい加減なまじめさ

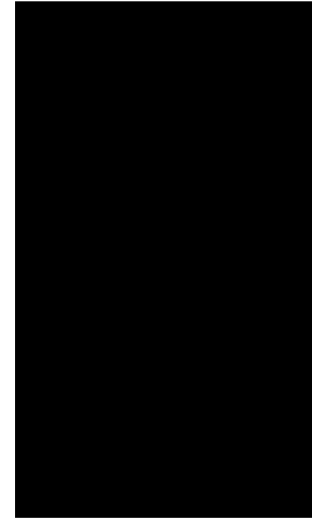
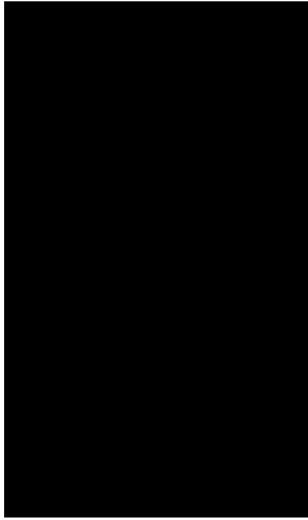
信じていない確信

コミュニケーション

關係性

関係性

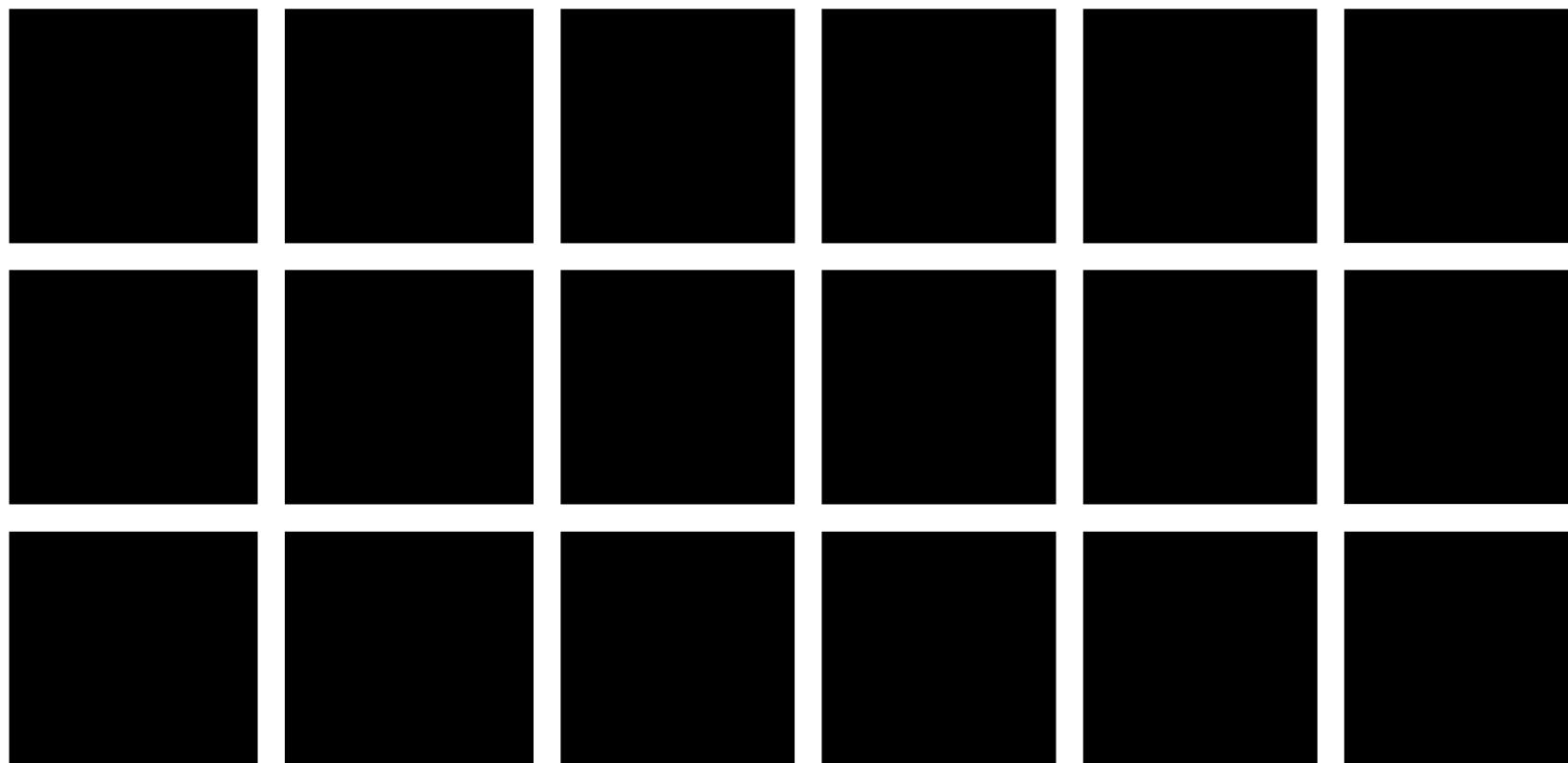
何か と 何か のつながりかた



間

二律背反

ネットワーク



能動性

共感

【参考・引用図書】

- 「レキシコンの構築」 大修館書店
- 「心のパターン」 松柏社
- 「心の生得性」 共立出版
- 「子どもたちの言語獲得」 大修館書店
- 「こころを生み出す脳のシステム」 NHKブックス
- 「からだ：認識の原点」 東京大学出版
- 「はじめての日本語教育」 凡人社
- 「ことばの発達と障害」 大修館書店
- 「かの蒼空に」 双葉文庫

